

ハイブリッド授業の類型と ゼミの事例紹介

山内 祐平

(情報学環・学際情報学府)

ハイブリッド授業とは

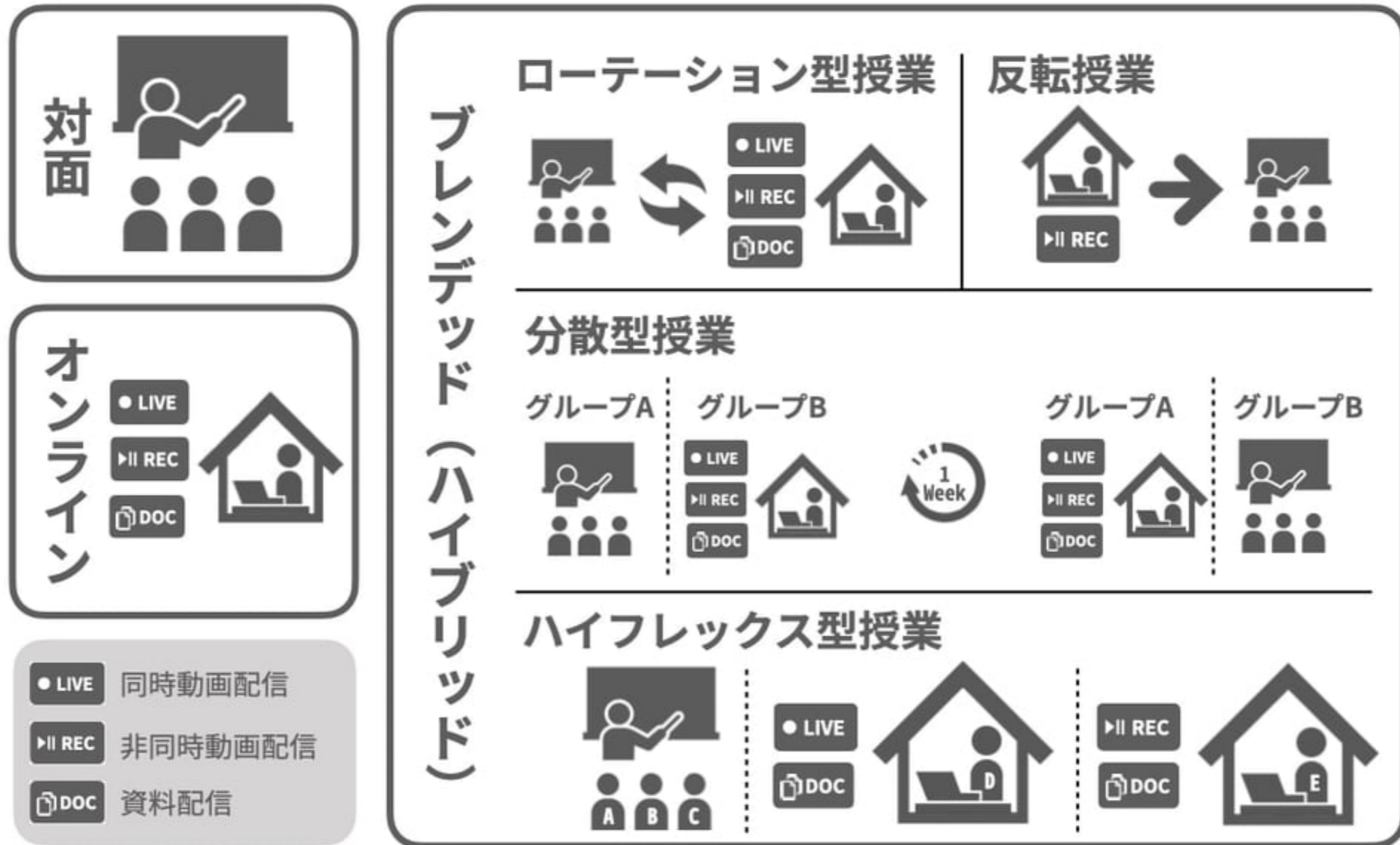
- 対面とオンラインの学習活動を効果的に組み合わせさせたカリキュラムおよび授業形態の

総称 (大阪大学全学教育推進機構 2020) *1

- ブレンド型(Blended) 授業とも呼ばれる

*1 <https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/blended-education.html>

ハイブリッド授業の類型



※各授業型の用語は、欧米や日本における一般的な定義をレビューした上で作成しています。組織や研究者によっては、異なる定義がされていることもあります。

(大阪大学全学教育推進機構 2020)

ゼミのハイブリッド化：概要



対面6-8名
オンライン
6-8名

全員がZoom
にログインし
て画面共有

ゼミのハイブリッド化：運用

- 対面参加が2週に1回程度のスケジュールを作った上で希望に応じて調整
＜ローテーション＋ハイフレックス＞
- 研究進捗発表は全員で議論
- 文献発表は4グループに別れて議論
(半数はZoomグループ)

ゼミのハイブリッド化：機材

- 画面提示用ノートPC1台
- スピーカーマイク(YAMAHA YVC-330)
部屋が広い場合は2台連結して利用
- 教室参加者のノートPCの音声はミュート
ボリュームはゼロにする



ゼミのハイブリッド化：メリット

- スムーズなディスカッション（発言連鎖）
- 休憩時間の情報交換
- 交流の活性化（特にM1）

ゼミのハイブリッド化：課題

- 学生の多くが対面を希望しており、要望に答え切れていない
- ハイブリッド授業の前後に行われるオンライン授業のアクセス場所の確保

現在のオンライン授業アクセス環境

- 福武ホール2F 研究室2（大学院生室）
- 福武ホール1F 学環コモンズ



まとめ

- 30名程度までのゼミについては、対面とオンラインのシームレスな運用が可能
- 各教室へのスピーカーマイク設置が望ましい
- ハイブリッドとオンラインの併用状況では学習空間の確保や時間割調整が課題